

第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成25年10月18日(金)5校時

児 童 男子9名 女子11名 計20名

授業者 菊池 昌典

1 単元名 本は友達

教材名 わたしたちの「図書館改造」提案／千年の釘にいどむ

2 単元を貫く言語活動とその特徴

身に付けたい力	言語活動設定の理由
<p>◎本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読オ)</p> <p>◎考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理することができる。(書ア)</p>	<p>① 単元を貫く言語活動 本単元を貫く言語活動として、よりよい読書習慣の実現に向けて必要な力を身に付けるために、国語科では始めて学習するノンフィクションの文章を読んだり、紹介の仕方を工夫したりする学習に取り組む。また、本単元で身に付けた紹介方法を生かして、図書館への関心を高めるための提案書を書き紹介し合う。</p> <p>② 言語活動の特徴 読書への間口を広げ、高学年となった自分たちの生き方を見つめ直す契機となるノンフィクションの文章を読み取り、そのポップ作りに取り組むとともに、「図書館改造」についてのアイデアを練り、根拠を明らかにして説得力のある提案書を書き上げる方法を学習していく。自分たちの読書生活を振り返り、現状を把握することから始まり、よりよい読書生活を実現するという目的意識をもって取り組むことができる活動である。</p> <p>③ 単元の目標の実現にどのように結びつくのか これら一連の言語活動を通して、児童は本に登場する人物の生き方・考え方を学び、自分の考え方を広げたり深めたりすることができる。そこから自分のよりよい読書生活について見つめ直し、豊かに読む力を身に付けるとともに、目的に応じて情報を収集し、それらを整理して書く力を身に付けることができると考える。</p>
<p>言語活動</p> <p>★ゴールとしての言語活動</p>	
<p>★選んだ本のよさを紹介するためのポップ作りに取り組む。</p> <p>★「図書館改造」についてのアイデアを練り、提案書を書いて紹介し合う。</p>	

3 単元について

(1) 児童について

児童は「百年後のふるさとを守る」の学習で「伝記」という様式の教材文を読む学習をした。この学習を通して事実と筆者の考えを読み分けたり、登場人物の生き方や考え方について考えたりする学習を経験している。「豊かな言葉の使い手になるためには」では、考えの根拠を明らかにするということを学習している。これまでの児童の様子をみると、伝記を読み登場人物の行った行動や業績について捉え、そのすばらしさを感じ取ることができるものの、自分の生活と結び

付けて考えたり、根拠を明確にして発表したりする力がまだ十分に身に付いているとは言えない。

また、児童の図書室の利用については、高学年になると様々な活動があるとはいえ、多くの人が積極的に利用しているとは言えない状況である。今回の学習を通して図書室に足を運ぶきっかけを作り、様々なジャンルの本を読もうとしたり、読書のよさを再認識したりして読書生活を豊かにする意識を高めていきたい。

児童の実態を知るために事前テストを行った（9月17日実施 実施児童20名）

	項 目	◎	○	△
①	調査結果を読み取り、問題点を探ることができる。	14	5	1
②	問題点に合った解決方法を考えることができる。	7	12	1
③	伝えたいことを短い言葉で表現できる。	9	8	3
④	本の紹介文を書くことができる。	8	9	3

(2) 教材について

学習指導要領第5学年及び第6学年における「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身につけさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。また、「書くこと」の目標は「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書くようとする態度を育てる」である。

本教材は図書館をよりよく「改造」するための提案書を書く「わたしたちの『図書館改造』提案」と、白鷹さんの生き方・考え方を描いた「千年の釘に挑む」で構成されている。

この2教材の学習を通して図書館の魅力を確認し、読書の幅を広げる構成となっている。

(3) 指導について

本教材の指導にあたって、次のような点に留意していきたい。

- ① 導入の段階で自分達の図書館利用の課題について把握させたい。課題を把握した上で「図書館改造」提案への活動へとつなげていく。
- ② 本教材「千年の釘に挑む」は一つ一つの文が短く端的である。短い文がリズムよく繰り返されながら釘の秘密を解明していく。読み取る中で、いつも読んでいる文章の表現とどう違うのかなどについて考えさせたい。
- ③ ノンフィクションを読むことで、自分の生き方について考えるよい機会になると考える。普段読んでいるものとは異なる作品に出会うことで、読書生活への間口を広げていきたい。また、仕事に熱意と誇りをもって打ち込む人物像に出会わせ、自分の生き方について考えさせたい。
- ④ 今回の学習で取り上げる本の紹介活動が「ポップ」である。児童はこれまで「読書郵便」「本の帯」「ポスター」などの紹介活動を経験してきた。「ポップ」の構成やキャッチフレーズについて学習することで、紹介活動の幅を広げていきたい。
- ⑤ 単元の最後に取り組む「提案書」では、現状分析から問題点の把握、そして根拠を明確にした改善提案を、これまでの学習で習得した力を活用して書けるようにしたい。
- ⑥ 指導計画に即して、評価の基準を明確に示しながら、評価を行っていくとともに、交流により友達からの評価も取り入れて、意欲の向上を図っていきたい。

4 単元の位置づけ

【4年】

本は友達 かげ

- ・目的別にいろいろなものを読んでいることを知る。
- ・文種による読み方の違いを知る。
- ・その本の特徴やよさが伝わるよう、ポスターで本を紹介する。

【5年】

わたしたちの「図書館改造」提案 千年の釘にいとむ

- ・図書館の現状分析をし、課題や改善方法を考える。

【6年】

わたしと本 森へ

- ・自分と本との関わりを考える。
- ・経験と結びつけて、本との関わりについて文章に書く。

5 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- ・問題解決のために、現状をとらえ、進んで情報収集しながらアイデアを練ろうとする。

【読むこと】

- ・本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
(読オ)

【書くこと】

- ・目的に応じて収集した事柄を、全体を見通して整理することができる。(書ア)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。(伝国キ)

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・問題解決のために、現状をとらえ、進んで情報収集しながらアイデアを練ろうとしている。	・目的に応じて必要な事柄を収集し、多くの人に本のよさが伝わるようにポップや提案書などを整理して書いている。	・描かれた人物の生き方や考え方などについて自分の考えをもち、発表し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりしている。	・ポップや提案書などの構成を理解している。

7 単元の指導計画 (全8時間)

次	時	指導目標	ゴールに向かうための言語活動	評価規準 (評価方法)
第1次	1	・自分たちの読書生活についての課題を見つけ、課題解決のための学習計画を立て、学習の見通しをもつことができる。	・読書アンケートや貸出カードの調査結果などから自分たちの読書の実態について把握し、課題を見つける。	【関】自分たち読書の実態について関心を持ち、実態をもとに今後の学習計画を立てようとしている。(ノート・発言)

		<ul style="list-style-type: none"> ・もっと多くの人に図書館を利用してもらえるように、アイデアを練っていく必要があることを理解する。 ・「図書館改造」のための単元計画を立てる。 		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館改造の方法の一つとしてポップがあることを知り、その特徴や作り方について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップのモデルを見て、その構成について気付いたことをノートにまとめる。 ・気付いたことを交流し、ポップはキャッチコピー、紹介文、絵や写真で構成されていることを理解する。 ・共通の教材文「千年の釘にいどむ」を読んで、ポップの作り方を習得することを確認する。 ・「千年の釘にいどむ」を音読し、初発の感想をノートに書きまとめる。 	<p>【関】問題解決のために、現状をとらえ、進んで情報収集しながらアイデアを練ろうとしている。</p> <p>(*ノート・発言)</p>
第2次 本時	3	<ul style="list-style-type: none"> ・白鷹さんのしたことや言ったこと、考え方について、「自分だったら」という視点で自分の考えをもち、交流することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「古代の釘作り」「白鷹さんの釘作り」「白鷹さんの願い」の三つの項目についてそれぞれに関わることを表に書き出す。 ・白鷹さんのしたことや言ったこと、考え方について思うことを、「自分だったら」「自分も」という言葉を使って書き、発表し合う。 	<p>【説】描かれた人物の生き方や考え方について感想をもち発表している。</p> <p>(*ノート・発言)</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・白鷹さんの生き方や考え方に対する自分の考えを、キャッチコピーに表し、その表現の工夫について話し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・白鷹さんの生き方や考え方について振り返る。 ・キャッチコピーを考える際のポイントを確認する。 ・自分が一番伝えたいことを短い言葉にする。 ・考えたキャッチコピーをグループで紹介し合い、友達表現の工夫などについて話し合う。 	<p>【説】白鷹さんの生き方や考え方に着目してキャッチコピーを考え、表現の工夫について話し合っている。</p> <p>(*ノート・発言)</p>

	5	・ポップの作品紹介などを書き、ポップを完成させることができる。	・「千年の釘にいどむ」のポップを作る。 ・推薦したい理由を明確にして紹介文を書く。 ・キャッチフレーズ、紹介文等効果的な構成や内容を意識してポップを作る。	【書】推薦したい理由を明確にしてポップを作っている。 (*ポップ)
第 3 次	6	・自分で選んだ本のよさを紹介するためのポップ作りをすることができる。	・図書館で紹介したい本についてポップを作る。紹介したい本については、朝読書等の時間を活用してあらかじめ選んでおく。	【書】構成を意識したり、キャッチフレーズなどを工夫したりしてポップを作っている。 (*ポップ)
	7	・問題点を解決するためのアイデアを練って、どのように図書館を変えていけばよいのか、構成を意識して提案書を書くことができる。	・図書館改造についてもっとできることはないかアイデアを練る。 ・教科書のモデルに沿って、提案書を書く。	【関】問題解決のために、現状をとらえ、進んで情報収集しながらアイデアを練ろうとしている。 (*ノート・発言) 【書】モデルに沿い、根拠を明確にして提案書などを書いている。 (*提案書)
	8	・書き上げた提案書を互いに読み合い、よいところを見つけて伝えることができる。	・友達の提案書を読み合い、よいところなどを見つけて伝える。 ・話し合いを通して自分の考えが広まった、深まったと思うことについてノートに書きまとめる。	【読】提案書を読み合い、提案のよいところについて話し合うことができる。 (グループでの話し合い) 【読】話し合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (*ノート・発言)

8 本時の指導

(1) 目標

白鷹さんの生き方・考え方に対する自分の考えを、キャッチコピーに表し、その表現の工夫について話し合うことができる。

(2) 提案したいこと

- ・白鷹さんの生き方・考え方を振り返ることで、自分が伝えたいことを明らかにすることができ、キャッチコピーを書く活動につながるのではないかな。
- ・キャッチコピーを紹介し合うことで、相手を引きつける表現の工夫に気付くことができるのではないかな。

(3) 展開

段階	学習内容・活動 (○主な発問、指示 ・予想される児童の反応)	・指導上の留意点 (*評価 △支援を要する児童への手立て)
つかむ	<p>1 白鷹さんの生き方・考え方について振り返り、課題をつかむ。</p> <p>○「千年の釘にいどむ」を読んで感じた白鷹さんの生き方・考え方のすばらしさをキャッチコピーにしてみましょう。</p>	<p>・初発の感想と既習の読み取りから、白鷹さんの行動や会話、思いに着目させる。</p> <p>△これまでの学習の振り返りをしやすいように、これまでの学習の流れを掲示しておく。</p> <p>・本時は、短い言葉で相手を引きつけるキャッチコピーを作る学習であることを確認する。</p> <p>・キャッチコピーを考える上での、大切な観点をみんなで話し合う。</p>
7分	<p>課題</p> <p>伝えたいことを短い言葉にまとめて、誰もが読みたくなるようなキャッチコピーを作ろう。</p>	
ふかめる	<p>2 白鷹さんの生き方・考え方についてすばらしいと感じていることについて話し合う。</p> <p>○みんながすばらしいと感じていることは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も実験して、もっといい釘を作ろうとしている。自分だったらあきらめるかもしれない。 ・千年先の職人に笑われたくないという職人の意地がすごい。自分も意地をもって粘り強く取り組みたい。 <p>3 キャッチコピーを書く。</p> <p>○読んでない人が、読みたくなるようなキャッチコピーを作しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千年もつ釘の秘密 ・職人の意地とは？ ・ふつうの釘とは違うぞ！ <p>4 作ったキャッチコピーについて話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① グループで紹介し合う。 ② 全体で話し合う。 	<p>・「自分だったら」「自分も」という言葉を使いながら、白鷹さんの生き方・考え方について感じたことを話すようにさせる。</p> <p>・白鷹さんの生き方・考え方を振り返ることで、自分が特に伝えたいことは何かを考える手がかりとしたい。</p> <p>・キャッチコピーを書く際には、伝えたい理由を必ず書くようにさせる。</p> <p>例：私が伝えたいのは……です。だから「……」というキャッチコピーを作りました。</p> <p>△なかなかキャッチコピーが書けない児童には2で話し合った内容を想起し、すごいと思ったことからキャッチコピーへとつなげていきたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*白鷹さんの生き方・考え方に対する自分の考えを、伝えたい理由を明確にしてキャッチコピーに書き表している。(ノート)</p> </div> <p>・グループの話し合いでは、「伝えたいことがキャッチコピーに表れているか」「読みたくなるような工夫があるか」などの観点を、友達よさを話し合う。</p> <p>・全体の話し合いでは、各グループから代表を</p>

33分	まとめ 千年後にも残る職人の釘！ ※児童が考えたキャッチコピー	選び、そのキャッチコピーのよさについて話し合う。
		*キャッチコピーの表現の工夫について話し合い、その効果について考えている。(発言)
まとめ 5分	5 今日の学習のめあてを振り返る。 ○伝えたいことを短い言葉にまとめて、キャッチコピーを作ることができましたか。 ○今日の学習を振り返って、キャッチコピーの作り方が分かりましたか。 6 次の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価で今日の学習を振り返る。 今日の学習でがんばったこと、友達から学んだことについて感想に書かせる。

(4) 板書計画

<p>千年後にも残る職人の釘！ ※児童が考えたキャッチコピー</p>	<p>まとめ</p>	<p>各グループ代表のキャッチコピー</p>	<p>白鷹さんのすばらしいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> 千年もつ釘を作ろうと頑張っている。 職人の意地をもってとりくんでいる。 	<p>キャッチコピー</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えが伝わる表現 人を引き付ける言葉 	<p>短い言葉</p>	<p>課題</p> <p>千年の釘にいとむ</p> <p>伝えたいことを短い言葉にまとめて、誰もが読みたくなるようなキャッチコピーを作ろう。</p>
--	------------	------------------------	---	---	-------------	--

言語活動設計図

教材名 わたしたちの「図書館改造」提案／千年の釘にいとむ

3		2			1		次時
8	7	6	5	4	3	2	1
<ul style="list-style-type: none"> 書き上げた提案書を互いに読み合い、よいところを見つけて伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題点を解決するためのアイデアを練って、どのように図書館を変えていけばよいのか、構成を意識して提案書を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で選んだ本のよさを紹介するためのポップ作りをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ポップの作品紹介などを書き、ポップを完成させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 白鷹さんの生き方・考え方に対する自分の考えを、キャッチコピーに表し、その表現の工夫について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 白鷹さんのしたことや言ったこと、考え方について、「自分だったら」という視点で自分の考えをもち、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館改造の方法の一つとしてポップがあることを知り、その特徴や作り方について考える。 	<p>要素</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習計画を立て、学習の見通しをもつ。
<ul style="list-style-type: none"> 友達との提案書を読み合い、よいところなどを見つけて伝える。 話し合いを通して自分の考えが広まった、深まったと思うことについてノートに書きまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館改造についてもっとできることはないかアイデアを練る。 教科書のモデルに沿って、提案書を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館で紹介したい本についてポップを作る。紹介したい本については、朝読書等の時間を活用してあらかじめ選んでおく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「千年の釘にいとむ」のポップを作る。 推薦したい理由を明確にして紹介文を書く。 キャッチフレーズ、紹介文等効果的な構成や内容を意識してポップを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 白鷹さんの生き方・考え方について振り返る。 キャッチコピーを考える際のポイントを確認する。 自分が一番伝えたいことを短い言葉にする。 考えたキャッチコピーをグループで紹介し合い、友達との表現の工夫などについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「古代の釘作り」「白鷹さんの釘作り」「白鷹さんの願い」の3つの項目についてそれぞれに関わることを表に書き出す。 白鷹さんのしたことや言ったこと、考え方について思うことを、「自分だったら」「自分も」という言葉を使って書き、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ポップのモデルを見て、その構成について気付いたことをノートにまとめる。 気付いたことを交流し、ポップはキャッチコピー、紹介文、絵や写真で構成されていることを理解する。 共通の教材文「千年の釘にいとむ」を読んで、ポップの作り方を習得することを確認する。 「千年の釘にいとむ」を音読し、初発の感想をノートに書きまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書アンケートや貸出カードの調査結果などから自分達の読書の実態について把握し、課題を見つける。 もっと多くの人に図書館を利用してもらえるように、アイデアを練っていく必要があることを理解する。 「図書館改造」のための単元計画を立てる。

ゴールに向かうための言語活動